

# 「レッド」、それは時代を動かす熱情の色目

千葉大学大学院工学研究科都市環境システムコース准教授

一般社団法人 洗楓座 代表理事

佐藤 建吉

「レッド」は、色の赤である。今回は、そのパワーを語りたい。「赤」と聞くと思いつくものに、美空ひばりの「真赤な太陽」（1967年）がある。大学の研究室の廊下に太陽光発電をプロモーションする掲示板をつくったが、エネルギーの源である太陽を歌うその音符を、書き連ねたことがある。もう一つは、サントリーのウイスキーの「RED」である。これは、1964年の発売で、わが国の経済成長期を代表するアイテムといえる。赤いラベルに白抜きの「RED」は、色

の赤いポスト、口紅、バラ、赤旗など、暖かさ・情熱・主張・変革など、動きを感じさせる。これに対峙するのが、青緑（BG）である。自然の草木、草原、湖沼、メロン、キュウリ、カエルなどである。グリーンカーテンとして植えられるゴーヤもこの範疇に入

る。しかし、色の世界は、無限である。しばしば1670万色のフルカラーを出せるカラープリンターなどと宣伝される。しかし私たちが見ることができる光の波長は380〜780ナノメートル（0.38〜0.78マイクロメートル）であるという。短波長が紫色で、長波長が赤色である。私たちは、1ナノメートル（10<sup>-9</sup>メートル）の波長区分となる。人間は、この区

分での違いを識別できない。実施は、せいぜい数十の違いに識別できるに過ぎないという。プリンターの1670万色のという宣伝は、実用性の話ではない。したがって大事な色彩を絞り込まなければならぬ。赤は、可視光では、波長が長い。すると振動数は短いということ、電磁波として持つエネルギーは低いことになる。一方、波長の短い緑色の光はエネルギーが高い（下図参照）。したがって、よりエネルギー密度の高い光を得ようとして緑色の葉を広げているのが緑色植物である。その植物が緑色に見えるのは、緑色の光を得るよう

に、美空ひばりの「真赤な太陽」（1967年）がある。大学の研究室の廊下に太陽光発電をプロモーションする掲示板をつくったが、エネルギーの源である太陽を歌うその音符を、書き連ねたことがある。もう一つは、サントリーのウイスキーの「RED」である。これは、1964年の発売で、わが国の経済成長期を代表するアイテムといえる。赤いラベルに白抜きの「RED」は、色

の赤いポスト、口紅、バラ、赤旗など、暖かさ・情熱・主張・変革など、動きを感じさせる。これに対峙するのが、青緑（BG）である。自然の草木、草原、湖沼、メロン、キュウリ、カエルなどである。グリーンカーテンとして植えられるゴーヤもこの範疇に入

る。しかし、色の世界は、無限である。しばしば1670万色のフルカラーを出せるカラープリンターなどと宣伝される。しかし私たちが見ることができる光の波長は380〜780ナノメートル（0.38〜0.78マイクロメートル）であるという。短波長が紫色で、長波長が赤色である。私たちは、1ナノメートル（10<sup>-9</sup>メートル）の波長区分となる。人間は、この区

分での違いを識別できない。実施は、せいぜい数十の違いに識別できるに過ぎないという。プリンターの1670万色のという宣伝は、実用性の話ではない。したがって大事な色彩を絞り込まなければならぬ。赤は、可視光では、波長が長い。すると振動数は短いということ、電磁波として持つエネルギーは低いことになる。一方、波長の短い緑色の光はエネルギーが高い（下図参照）。したがって、よりエネルギー密度の高い光を得ようとして緑色の葉を広げているのが緑色植物である。その植物が緑色に見えるのは、緑色の光を得るよう

に、美空ひばりの「真赤な太陽」（1967年）がある。大学の研究室の廊下に太陽光発電をプロモーションする掲示板をつくったが、エネルギーの源である太陽を歌うその音符を、書き連ねたことがある。もう一つは、サントリーのウイスキーの「RED」である。これは、1964年の発売で、わが国の経済成長期を代表するアイテムといえる。赤いラベルに白抜きの「RED」は、色

の赤いポスト、口紅、バラ、赤旗など、暖かさ・情熱・主張・変革など、動きを感じさせる。これに対峙するのが、青緑（BG）である。自然の草木、草原、湖沼、メロン、キュウリ、カエルなどである。グリーンカーテンとして植えられるゴーヤもこの範疇に入

る。しかし、色の世界は、無限である。しばしば1670万色のフルカラーを出せるカラープリンターなどと宣伝される。しかし私たちが見ることができる光の波長は380〜780ナノメートル（0.38〜0.78マイクロメートル）であるという。短波長が紫色で、長波長が赤色である。私たちは、1ナノメートル（10<sup>-9</sup>メートル）の波長区分となる。人間は、この区

分での違いを識別できない。実施は、せいぜい数十の違いに識別できるに過ぎないという。プリンターの1670万色のという宣伝は、実用性の話ではない。したがって大事な色彩を絞り込まなければならぬ。赤は、可視光では、波長が長い。すると振動数は短いということ、電磁波として持つエネルギーは低いことになる。一方、波長の短い緑色の光はエネルギーが高い（下図参照）。したがって、よりエネルギー密度の高い光を得ようとして緑色の葉を広げているのが緑色植物である。その植物が緑色に見えるのは、緑色の光を得るよう

に、美空ひばりの「真赤な太陽」（1967年）がある。大学の研究室の廊下に太陽光発電をプロモーションする掲示板をつくったが、エネルギーの源である太陽を歌うその音符を、書き連ねたことがある。もう一つは、サントリーのウイスキーの「RED」である。これは、1964年の発売で、わが国の経済成長期を代表するアイテムといえる。赤いラベルに白抜きの「RED」は、色

の赤いポスト、口紅、バラ、赤旗など、暖かさ・情熱・主張・変革など、動きを感じさせる。これに対峙するのが、青緑（BG）である。自然の草木、草原、湖沼、メロン、キュウリ、カエルなどである。グリーンカーテンとして植えられるゴーヤもこの範疇に入

る。しかし、色の世界は、無限である。しばしば1670万色のフルカラーを出せるカラープリンターなどと宣伝される。しかし私たちが見ることができる光の波長は380〜780ナノメートル（0.38〜0.78マイクロメートル）であるという。短波長が紫色で、長波長が赤色である。私たちは、1ナノメートル（10<sup>-9</sup>メートル）の波長区分となる。人間は、この区

分での違いを識別できない。実施は、せいぜい数十の違いに識別できるに過ぎないという。プリンターの1670万色のという宣伝は、実用性の話ではない。したがって大事な色彩を絞り込まなければならぬ。赤は、可視光では、波長が長い。すると振動数は短いということ、電磁波として持つエネルギーは低いことになる。一方、波長の短い緑色の光はエネルギーが高い（下図参照）。したがって、よりエネルギー密度の高い光を得ようとして緑色の葉を広げているのが緑色植物である。その植物が緑色に見えるのは、緑色の光を得るよう

に、美空ひばりの「真赤な太陽」（1967年）がある。大学の研究室の廊下に太陽光発電をプロモーションする掲示板をつくったが、エネルギーの源である太陽を歌うその音符を、書き連ねたことがある。もう一つは、サントリーのウイスキーの「RED」である。これは、1964年の発売で、わが国の経済成長期を代表するアイテムといえる。赤いラベルに白抜きの「RED」は、色

の赤いポスト、口紅、バラ、赤旗など、暖かさ・情熱・主張・変革など、動きを感じさせる。これに対峙するのが、青緑（BG）である。自然の草木、草原、湖沼、メロン、キュウリ、カエルなどである。グリーンカーテンとして植えられるゴーヤもこの範疇に入

る。しかし、色の世界は、無限である。しばしば1670万色のフルカラーを出せるカラープリンターなどと宣伝される。しかし私たちが見ることができる光の波長は380〜780ナノメートル（0.38〜0.78マイクロメートル）であるという。短波長が紫色で、長波長が赤色である。私たちは、1ナノメートル（10<sup>-9</sup>メートル）の波長区分となる。人間は、この区

分での違いを識別できない。実施は、せいぜい数十の違いに識別できるに過ぎないという。プリンターの1670万色のという宣伝は、実用性の話ではない。したがって大事な色彩を絞り込まなければならぬ。赤は、可視光では、波長が長い。すると振動数は短いということ、電磁波として持つエネルギーは低いことになる。一方、波長の短い緑色の光はエネルギーが高い（下図参照）。したがって、よりエネルギー密度の高い光を得ようとして緑色の葉を広げているのが緑色植物である。その植物が緑色に見えるのは、緑色の光を得るよう

は、緑色の光を得るよう

に創られた器官から反射した光の色を、私たちが感じるからである。

前述したゴーヤは、果

実をつけようとしている

ときは緑色をしている

が、成熟し種を残そうと

する時期になると、果実

は黄色になり、その中の

種子は赤色になる。それは、鳥たちにアップル

「グリーンインベーション」ではないだろうか。これを、レッド「グリーンインベーション」と呼ぼう。これは、反証に過ぎない提案かもしれないが、そのねらいは、次の3つである。

①持続可能を確かにする  
熱い行動をすること。赤のパワーである。

②経済活動の後押しを得て、心理的、情緒的な動機付けをつくり出すこと。赤のもつ特質である。

③実質的に、効をなす技術的解決策を導入すること。例えば太陽光発電でもシリコン系セルでは限界となつている高波長域限界を、「多接合型セル」を採用して赤色域の光も利用できるようにすることである。これにより、可視域を網羅し、更に赤外線域の光も利用できるという。そのとき、太陽光発電の適用波長域が広がり、「赤いソーラーパネル」が登場するかもしれない。

こうして赤は、活力を与えるシンボルになるともいえる。持続可能な未来を早く構築するために「色彩計画」は、決して重要な仕事でもある。

筆者は、大学で「都市エネルギー概論」という科目を講義しているが、学生は新エネルギーや再生可能エネルギーなどの言葉を知っても、それを将来の自分の仕事にしようと考ええるものは少ない。相変わらず、大企業志望で、新ビジネスに挑戦しようとはしない。

こうして考える

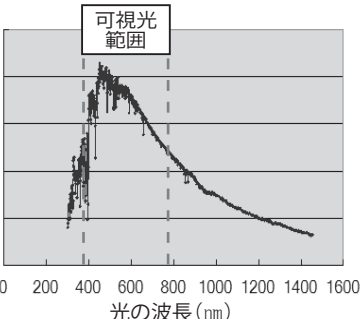
と、いま必要なのは、精神や行動に

対するインベーションで、それは

「赤・レッド」の

パワーをもらった

「グリーンインベ



光の強度分布 (W/m<sup>2</sup>/nm)